



~ 13
3139
2



古今奇談 野話 第二卷

③ 紀の園守が靈ら一旦白鳥に化ると話

往古いつまの世も。紀泉のさうい雄れこの園と。山に庄司次郎有ると  
いふの家より。て是と守る多の家。僕日次と接と園と。はと。た  
は。生かぬを。平日。儀代ぬと。外の。衆と。要めぬ。又。上より。家  
を。せる。一。張の。寝る。あり。鹿。鳥の。数。多。ら。た。め。あ。ま。は。射。あ。て。と。い。ふ。  
な。り。中。の。射。の。皆。羽。を。飲。で。一。幕。に。整。る。近。村。四。路。れ。禽。殺。け。ら。は。獲。ら。る。  
こと。幾。世。幾。年。と。あ。す。家。に。あ。れ。と。い。た。た。ら。と。も。た。ら。う。も。呼。な。せ。り。  
庄司次郎家。に。た。く。一。族。廣。に。な。り。な。る。今。の。昔。同。く。と。る。人。和。の。園。人  
橋。の。村。旅。と。い。ふ。人。の。あ。る。雪。名。親。の。名。を。う。り。て。家。を。色。ま。と。ま。と。興。て  
紀。の。園。に。あ。る。山。に。た。り。と。接。助。と。い。ふ。庄。司。次。郎。親。り。た。男。と。と。抱。か。み  
吐。く。敵。と。す。る。た。雪。名。は。ぬ。す。る。と。う。て。温。床。に。の。る。ん。だ。庄。司。次。郎。は。ひ。て

市谷若洲屋 田町共衛

昭和九年 九月十二日 購求

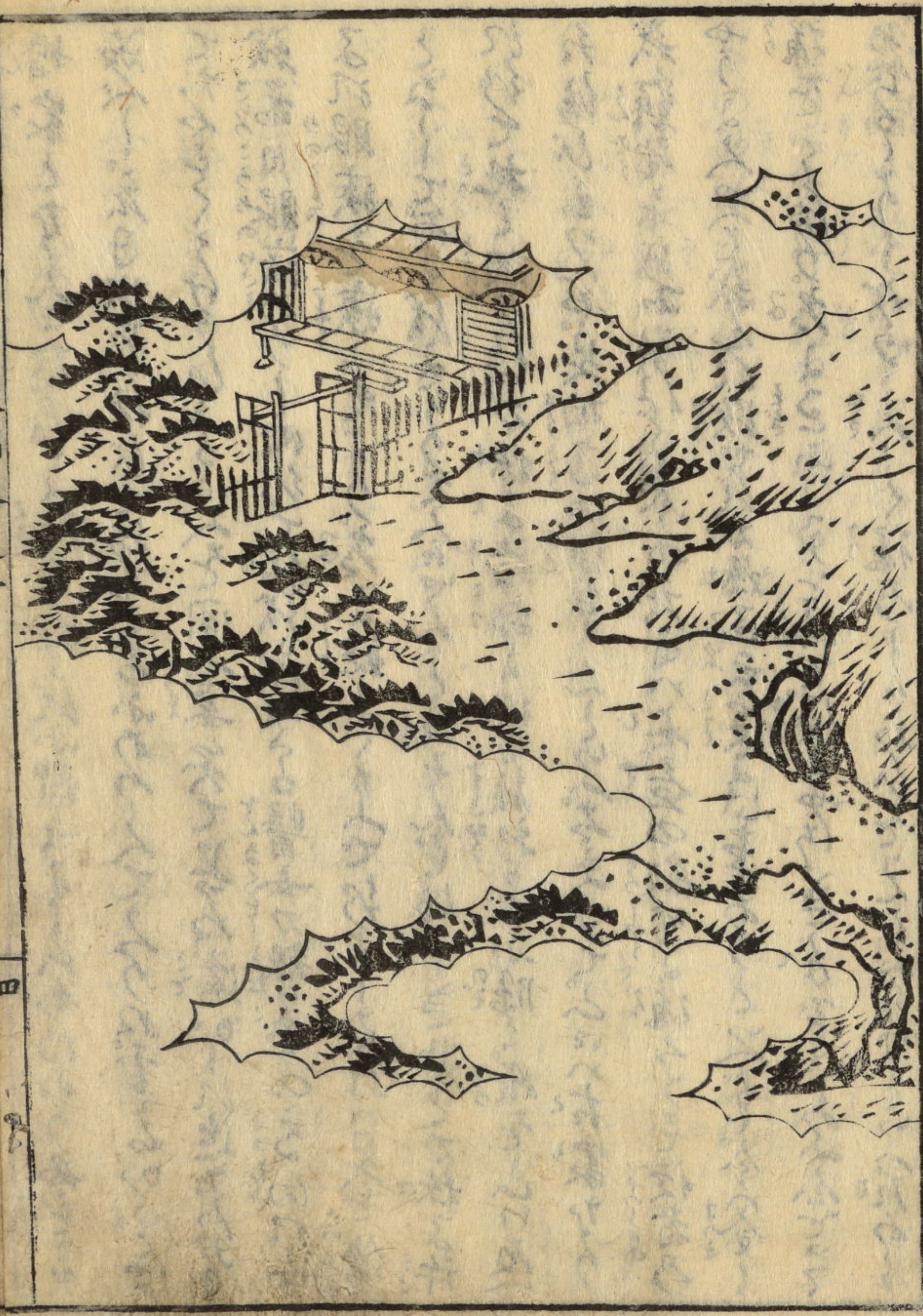
英州奇談後編卷之二

五人求らうと。居るさだの膳成ふ。出る所の馬をたぐて獲と。或所の冥前  
の横目よ我が代勤となし。便ちうまき多し。雪名が女房小蝶。年々く  
せし清くあり。紡績の業よたてし。と夫の衣服よとる。あつく賜ふ  
き縁とそとなく。只糊にちりりする。其垢取の取とみらる。いさだ  
よく。洒掃にち成用い。あまじびく。は。後かたさる。女のふね。雪名が  
國成出る所。囊中よおあり。とと人皆あつ。床目次第。ゆて雪名が垢取  
一訪。ゆき。雪名がね。びん。の。ゆき。容態と。ぬ。奴。僕。く。そ。る。な。れ  
い何をいけせん。素も。か。若く。電。あ。り。て。酒。更。よ。十。餘。枚。乃。盡  
後を造り。清き流。悉く。榊葉。あ。て。盛。出。し。雪名。清。も。懸。動。は。足  
をすむ。床目。是。を。含。み。其。制。ら。う。く。味。田。舎。の。あ。い。す。是。よ  
茶。下。し。て。お。話。を。妻。も。時。客。位。の。ひ。た。向。い。て。あ。は。し。ら。ん。ま。で。う。の  
を。き。是。の。ゆ。が。た。し。と。と。ま。ぐ。お。話。と。引。立。奥。ど。る。氣。と。い。静。間

かろる中に婿ありて。たそ。素。姓。は。あ。じ。雪名。も。此。女。の。あ。い。と。親。ま  
う。ゆ。れ。故。に。ゆ。め。ゆ。め。と。思。ひ。も。是。より。老。よ。来。り。て。四。方。か。難。詰  
を。か。り。き。こ。も。ま。ぬ。が。な。て。そ。か。く。さ。う。み。ら。る。が。い。づ。つ。一。つ。床。目。は  
身。不。良。ん。た。り。て。あ。ま。く。れ。戲。ま。よ。も。情。状。含。む。詞。乃。踏。き。あ。け  
ど。女。何。も。思。ひ。ぬ。さ。は。か。り。雪名。え。より。身。よ。さ。め。だ。あ。る。所。雪名。の  
圓。は。ゆ。め。の。縁。想。ひ。か。け。あ。ま。来。る。女。房。揚。り。あり。て。使。な。し。と。い。ひ  
らん。麻。れ。い。き。よ。と。る。あ。い。ご。ん。身。と。か。く。一。音。せ。と。あ。る。昔。より。女。女  
の。か。ろ。る。見。へ。ん。が。お。と。い。や。る。又。い。か。ね。ど。や。者。らん。白。く。ふ。や。う。の。あ。ま  
夫。の。鹿。乃。下。より。人。き。こ。る。ん。ご。よ。と。と。や。と。い。づ。り。より。や。と。抱。し。と  
めて。足。を。凌。ぐ。女。服。で。力。と。極。り。て。も。我。拒。き。た。く。奮。奮。い。て。あ  
る。う。る。ゆ。い。あ。る。ゆ。と。い。づ。く。女。の。ら。か。う。た。ん。を。汗。か。が。れ。て。雨。の  
あ。く。君。が。い。ご。か。い。は。は。な。し。と。づ。ら。り。て。床。目。は。拒。け。し。欲。力。を。一



山崎の石段



山崎の石段







ぬとまのれを賣るを急をばけし海の時味をあらめて  
と一日お交心を辱して彼をなくまぬけし人多うに女を  
類して入来り既よ客殿よりして席に進み上座の座よりけり  
猛虎の竹を傷し風を包れとる勢ひ眼光人と射りかぶらぬ  
蝶一同アそめとさけびて座を飛しうらみ梳とれし葉垣と  
行ぐとちうなりぬ。雪も用章警しそもびとあてぬを自  
を地へ逃いとし人もせだ。身もあつる小袖の芳しとびか  
脱の売。單皮のそとろて標は遠く。祭のひざりし落らりて  
かざりひたりぬ。く只あされよあまをて面を合らるの  
床目次今何とけしとまんと我が珍公のとだこし  
雪もよかろ。女がし身ををるに。雪もよび女房の甚く  
よの賣来るを親なるもの買とりて婢とらん。我もよらん

親乃さみんといふ妻とけぐるもゆるゆ。びくとほまて  
よしあるにたよぶ。床目次今何とけしとまんと我が珍公のとだこし  
かたも百濟川。豊の秀逸高向をまねて花なりしと標し入ま  
得さるし物なり。恐もて本取を露りて。画真のすり  
ふ中し。流るなり。ばへ園の者ども夏人ををれかこみ  
ふも。床目次今何とけしとまんと我が珍公のとだこし  
ゆを。家の子多うつらうとる。ゆりてたのうらと標せり。げら  
標とるん。ゆりてたのうらと標せり。げらとるん。ゆり  
且又用りしれし。流やえく。殺せぬ。たごりて箱とるん。ゆり  
教より白狐。求衣の用として。逃園よ命とて。討よ予家射標と  
とるん。ゆりてたのうらと標せり。げらとるん。ゆり

英神書後編卷之二



弓をこらば。家人の内は盗ととりし者ありやと捜し求むること  
急なり。其方をとらぬ盗賊とも入らざらば。懐き分取らるる事  
とらざる。今日私にえらるるもあまざらば。世の中懐き分取らるる事  
ら守。其男へも先をさす。本國よ人を遣て其身許をも守らざらば。  
その白は皆と毎に掃て散らる。其取らるる事又小蝶ありて云  
や。我母とらるる同ト狐として。老翁の長者がみお春属此命と  
免ある事度なり。其報りて彼が家又掃掃儀とらる。掃掃儀  
乃山の園守が殺生を馳せたり。制止せんとの念ありて達せぬ。我も念と  
後て先世が寶弓を我に遺し。我身のあまりとてましく友人  
助け。大ねなる雪名をさすい出し。いふ事ある。你が魂を迷り死  
てゆく殺生儀とて。死生多し。いふ事ある。又白狐を捕せらる  
てのうらさ。あつたがう。是人の言傳ふて。狐悲何の寶弓とかなん

き膝下の皮を縫あてて。白狐をうらる。狐又驚く。て。狐  
に。堪む。肌不平なり。年経て。白狐となり。い毛落皮枯て。赤く  
とん。黄観る。い。此より。公は。若く。狐。白裘の。用。な。れ。る。を。語。し。あ。り。  
去。り。て。も。靈。なる。う。狐。彼。良。弓。也。又。他家。よ。こ。ま。り。ず。自。ら。死。て。い。は。  
の家。よ。帰。る。神。ある。う。掛。画。虎。威。真。又。逼。り。て。我。が。多。年。の。血。を。  
を。破。る。是。皆。お。の。定。数。あり。て。我。が。力。又。及。ん。だ。り。な。り。と。其。取。同。  
し。夏。の。お。ご。り。は。目。次。多。雪。名。友人。また。た。ぬ。ぬ。一。詞。な。れ。ば。え。来。一。  
狐。の。お。み。ふ。り。て。二人。種。の。ん。機。を。穿。し。ぬ。る。其。取。本。の。目。次。初。  
れ。の。ま。が。殺。生。より。幸。な。ら。り。ぬ。れ。た。と。い。げ。ら。と。長。く。庫。裏。に。た。ぬ。  
其。位。よ。あ。り。ず。し。て。無。益。の。福。を。と。ら。す。は。公。と。潜。る。る。な。り。と。い。は。う。  
く。や。と。あ。り。て。再び。殺。生。に。お。び。ぬ。雪。名。友人。も。迷。惑。を。れ。な。ら。り。女。房。  
を。と。る。公。の。や。ま。ざ。り。ら。し。と。い。は。い。は。た。目。有。與。か。く。ん。咏。

トク

引く縁した月乃らのつものまゝあつて昔にせむべしと云ふ  
書名もくねひつてなす

たゞれたつるやつらるるらり紀乃川上の白鳥の雲  
友人

朝のさひ臨みて憑て紀の川乃たのしみまるれ我源くと  
二人の奉まをさうしりて大わづこまのりぬ彼雄のふ乃園を  
白鳥乃園とも呼まざるはけ謂よりとる

④ 中津川入道山伏塚を築ちむる話

足利の世漸一統なりんとし貞治應安に比勢別多度等の口は橋本を築  
と子人文武備及金の口へあまて遠近に赴れ人多し。其中に三年をり  
へある浪人宇多政房といふ者其人を控く人の教を成せして多言る

が二人なりふそとて回て云世の人若くはなるは実や南朝の功を武を四  
海に達し。播河泉に交れ。後之位中將を賜ふ。一判長楠公凌川  
に依後切りと跡を憑し任をのぎて今愛名とる。前則先生より  
といふ。小生も年はなほ若く是なるは常倫のきよあらず。大業  
の時節小あり合はんとす。かのさへおのの宮軍。矢田十郎義登  
とつる。あつらう。宮流刑のそ身とのまは生國たれば。地を  
て。進死あつらひ。幽ふとあり。爾来土も木も足利の風も。偃て南朝に  
に。兼へ。甚喬やう者。初々。甚とくひあつらふ。先生も  
造ねに言さば。其後なれば。帥の侍師。則社。今播の。中津川  
に。館をかま。赤松。附属地を看る。僕と云ふ。二の。喬遊。な。有。能  
を。息。な。は。へ。奥。又。備。後。の。之。身。高。德。存。生。し。て。時。く。大。通。り。を  
は。ま。て。只。有。方。れ。衰。敗。を。な。げ。く。九。列。の。菊。池。勢。微。か。れ。る。美。哉。を。屋



英州帝後編卷之三

世に於て我治の古其如故也。終も誓后存命なり。今よて一復  
号の人ありは。其後ふして馳集ふ者何成同どうせん。賢いこと  
同の操持実には迷然の伴とて。世の上の人我を捕と沙汰とるもの。疾より  
我耳よりつたれども。出たの白かる某等の人きつあをさ。終ること  
たに難設とそ。貴方を始れ世の人軍情成知れあたり。蜀の諸葛亮  
夜も祁山小出つた必と勝れ術あるにわ。魏の勢日日本浩大を  
たけ方五ふふして取難ありとのこと。そのを成るまで危き道き  
以勢を以て國家れを成る計未の相國の身となりてい  
るのり公若し。いづるも英雄やせよ。是程れを成るに敵と計  
に足まり。我軍畧足るにわれば。是うとけ軍は勝べきよ。富十分あり  
とふやうなり。其上時愛あり兵を愛ありて千魚れおふ出ると。お  
老父は家よ。昔土師乃何某と始て捕の姓を賜り。その首白城王

の外戚なり。成。故ありて其姓を継む。いへ八代好む。たの大細言より。枝  
を分ち樟後い。いづるも。身微力なれども。宿軍れ大指ふ。厚は  
さうく。さ大比の死を得て。大敵をらむ。元軍様を我おとて。  
愛に鬼神の如く。とゆき。是皆其時。小は。て。疾疾の中より。智  
計を練出。一族士卒。れ。精忠より。拒き。お。せ。智に。及。び。さ。る。お。い。り  
を。せ。あ。て。命。ふ。は。る。せ。一人。は。敵。と。る。も。日本。國。を。門。外。て。死。と。る。一。身  
一命。お。も。れ。な。り。い。づ。り。け。し。成。君。に。指。げ。若。標。た。ゆ。は。ず。る。心。力。を  
と。師。は。旁。に。恢復。の。時。成。て。是。利。成。謀。及。の。物。よ。一。び。り。西。海。を  
走。ら。し。免。敵。ふ。り。還。却。な。り。な。り。す。と。盛。名。を。二。倍。と。り。こ。し。一。つ  
ハ。時。運。の。と。ま。よ。る。もの。な。り。ハ。本。政。と。む。け。賞。討。均。等。な。り。は。  
新。田。成。英。雄。な。り。と。す。も。家。勢。秘。より。激。や。て。之。氏。に。對。せ。は。  
既。に。家。運。傾。く。の。小。糸。と。り。よ。こ。い。ろ。し。よ。大。多。勅。與。と。り。は。是。利

天命の取らるる。明眼よりんれば勝べきの敵あり。此を以て軍  
利より握りてそのあつたればいづれに勝氣を以て時  
をえぬ。さうりゆり我死たり。已に嫡子正統は多病を病死  
せんよりいざ事な流りんと。二十六才にして叙成られ下す我死し  
らるる。残念なり。今これを死戦の國をくろくをわて知す。  
士らよのい初ふ甚主人をあらぶべきこと一せられたるなり。黄石公  
が直と腹を随て張良よ取らるる。其踏あよを以て用ひよ。乃  
教を隠しらるる。はみたり。持成初め天命の取らるる。我知て替れ  
なり。終い命の革をくそて死して君よ報と。公の靈あり。六諸者  
の取をあらぶ。但し盤は楠公とて呼び。右代樟乃字俗は持  
と者ら。或楠の字小混とらるる。まき。おま。有羽鳥及れば  
取らるる時ををあらぶ。あつた。是の人情はは悪じ。さうら

ど。さうら。は。成。成。は。そ。る。る。有。羽。の。根。基。と。す。る。大。和。紀。の。路。一。統  
して基本巢穴なり。今塔起乃佐の事を成べきなり。す。お。ま。  
下も年出諸まら。ちる。ち。は。は。は。ひ。ま。ら。る。乃。成。成。ら。る。ら。は。  
て。ま。ら。ん。と。枕。と。と。さ。角。か。る。本。を。二。つ。れ。出。し。是。を。と。り。作。ら。る。  
子。身。に。示。を。隠。然。たり。と。掛。る。長。刀。を。下。し。て。宇。田。以。て。授  
け。是。下。中。に。誠。を。隠。し。て。石。突。を。以。て。直。下。小。突。通。し。試。と。ま。  
次。録。を。下。す。なり。中。に。念。と。る。有。あり。て。力。に。ま。る。せ。突。下。と。い。い。  
角。本。母。貫。は。て。徹。ま。り。又。一。個。を。お。を。突。下。と。い。い。ば。度。の。縁。の。か。た。て。  
角。本。依。然。と。り。次。ら。回。を。云。い。た。め。あ。が。ま。ど。る。た。を。書。云。其。費。き。  
通。り。ら。る。内。意。中。に。相。れ。如。し。志。力。強。き。所。の。を。る。へ。後。の。費。は。  
か。の。中。外。な。く。純。本。なり。孫。武。子。の。突。と。る。もの。代。と。り。よ。もの。  
是。なり。お。ま。は。は。其。兵。を。授。す。是。れ。を。陳。と。臨。ん。て。一。時。れ。突。と。り。よ。

なり。今れ世の如きい實なるとなり。亦べきの時よわらば。或は世下を  
かりし堅くして通るに。交わる方費々らぐ。如く愛封あるは。結ん  
ぶ事成然と云ひ。人信なき。初勇氣ありて。いかに剣を先ひ  
ては。勢折け。始終を保ごし。其書ふ娘の處女。の如く。後の脱兎  
の如しと云ふ。脱兎の如く。女の既ふ破身したる。口悪し。言ふる其  
比乃様。諺なるを。孫子取て。壁とせりと。彩田原。新諺と。後より  
し。中強弩の勢も。放し。ゆり。末て。入。魯儒の。海を通る。ぬ。同定  
なり。且下の如く。いひ。ゆり。より。ゆり。との。勢を用ひ。と。て。必用  
の時。は。を。勢。か。た。を。の。かり。げ。と。ゆ。の。り。い。を。ゆ。り。要。老。が  
諫。に。い。い。い。と。理。代。せ。あ。て。蒙。を。穿。の。詞。は。次。う。赤。面。と。て。公。服  
や。だ。彼。が。う。け。は。ざ。り。は。是。能。い。な。し。我。家。事。を。の。り。て。い。ま。ま  
に。ゆ。り。の。こ。し。と。彼。長。刀。の。鞘。を。と。り。し。な。だ。つ。と。し。す。り。何。れ。た。系

早く後の一間小入りて戸を引立てり。一重の障へおたる突色  
と突長刀の袴本より。屈然と。まは。松刀なり。ゆる。前へ。門生。較  
人へ。来り。多。統。を。何。を。な。り。く。親。を。正。しく。し。ゆ。い。ま。ま。し。劍。を。我。し。た  
授。く。海。で。き。と。な。り。し。と。立。出。る。ん。と。と。る。所。た。を。湯。出。来。て。再。び。ふ  
は。身。休。ま。よ。法。平。れ。世。ま。ま。派。用。を。大。人。の。徳。を。害。ひ。小。人。の。必。に  
ぬ。かり。用。を。し。て。安。き。所。の。強。刀。に。論。は。執。止。り。よ。ま。ま。い。は。べ。し。是。意  
老。が。足。下。と。送。る。の。聲。今。より。永。く。絶。と。べ。し。と。い。ふ。次。帝。甚。恥。入  
り。面。を。低。て。崩。れ。逃。る。が。如。く。其。姿。を。去。り。ぬ。る。た。を。悉。く。動。作。無  
る。者。の。人。扱。な。り。世。れ。人。口。疑。な。り。と。我。を。遣。い。て。ぬ。く。よ。い。家。と。是  
情。人。眼。中。は。西。施。と。出。と。し。つ。る。勢。な。る。べ。し。宇。田。次。帝。を。ぞ。け。い  
外。せ。り。う。へ。早。く。い。ひ。ま。ん。と。ま。よ。り。其。身。山。伏。の。ぬ。ふ。お。拵。て。後  
の。位。右。防。へ。た。れ。無。音。か。れ。ば。と。彼。は。初。て。其。色。初。聲。を。さ。さ。り

史。何れをも別荘に入らふ一面でんと中津川に立入りたる。壘高く  
げ。高門大補殿に設け。處に水成盛なる舟を並べたり。乃  
釣敷多挿て火災に依り門内の白砂に全まるに奠ふ。對面れを  
も迂活に入りて看門の者より向ひ。某の園林とて竹籬道也  
先年密教ふ系せし時。佛主人より朝夕伏侍せし。來奉ふおの  
し。上京の路次懐旧捨びて推系はる。け。歎歎次て玉りるべしとて  
看門の者にてやうて入て進する。猶も入道道なるやと。睡に結入  
立出にやうするに。多隔にぬきども。足るある矢田義登なる。  
徒どや恙なうりしと。詞を親しく。茶成吃せし。酒合を陰。  
往事のうらなつぎ。住吉跡に宿とれば。又も系人と其日の何  
事なく。續してほりぬ。日以隔て再び。終に少も疏をなく  
相待して。酒合席を同じく吃し。昔よかりぬるを。とて。茶を

膝成とりあてり。有羽乃股肱。又宮の暇遊。遊をう海し  
改成した人なり。時うり代り。感傷したる。とて。入る。嘆  
息して。宮の御謀。又愛の歡慮より出て。却て。啓成。字はゆづ  
せ。お例のまのうらう人と。君命なりし。とて。足志う。ながう。造  
化の自然のうらなり。義登云。ひう。日夕ふ。禁懐とか。人  
し。このまの今。小志。とて。美君。は。め。と。我も。人情。先  
ま。ざる。前。か。た。は。も。隠。居。して。世。よ。あ。ら。ざ。ら。ぬ。身。の。口。ふ。月。又。其。情  
う。守。く。美。あ。び。も。同。公。を。と。て。玉。り。ざ。り。か。し。ひ。た。ひ。ひ。く。義。登。云。  
僕。の。所。時。も。回。後。の。念。や。は。だ。あ。ま。れ。昔。日。の。よ。う。と。と。志。ま。は。加。祖  
あ。ら。ば。日。か。く。ず。し。と。成。孝。人。美。君。は。は。は。と。認。む。り。ん。今。勢。州。に。攝  
謀。た。ま。湯。と。愛。志。と。り。の。正。一。く。捕。判。官。と。と。り。被。う。三。男。正。勝  
衰。た。は。も。終。ふ。劍。破。を。守。る。真。跡。は。四。國。は。義。宗



英州集後編卷之二





まへに匹またることを免れぬ。拳刃二尺神あり。隔壁一層人耳  
多し。再びいひ志をうつてかくれ。今控老を無二の力とあひてこ  
らふも應せざるがごとく。世の人も又志うん物とてひらつてこよ  
融者の南門を移按て。佐右防も移らなくたなど。ひく粒と一け  
かり入ると同道して移た。彼防も我を無る人の中。小ぶ  
ぶしと。え来極慮に義登。よし入を。お掛よと。べしと。急  
の尾と右派をこのる。人遠き。あつて。詞を。掛とせり。く切つけ  
り。入るぬ。飛のきと。按りま。よせり。開つ。二三度。せり。ぐ。入る  
鳥を。迷く。と。びて。あ。く。切つけ。切。傷。あ。か。が。ひ  
世れぬ。小害。ぬ。の。ぞ。く。自。れ。你。が。あ。を。振。り。す。り。刀。れ。血。押。搦。ふ。あ。よ  
向。か。る。神。祠。の。敷。げ。よ。一。人。の。農。ま。楯。を。杖。よ。は。き。て。あ。わ。る  
が。ま。り。来。り。て。い。ま。あ。は。れ。ん。ま。ま。中。津。川。に。新。糸。の。下。が。なり。殿

の。草。身。あ。て。出。あ。を。こ。そ。を。め。り。せ。ず。ん。か。く。れ。は。伊。佐。せ。り  
と。し。其。体。め。め。り。あ。わ。さ。く。入。れ。あ。て。い。ま。れ。ざ。る。か。の。ま。ご。が。猿。知  
あ。は。て。れ。ば。始。終。を。世。よ。よ。り。さ。ん。刀。次。小。然。る。ぞ。と。あ。れ。く  
引。よ。す。る。事。急。な。る。に。あ。ん。で。此。男。制。止。す。我。の。倍。居。よ。あ。れ。ば  
鹿。急。し。む。か。り。と。い。ふ。入。れ。は。き。と。ま。り。て。あ。は。れ。あ。き。す。こ。し。い  
油。以。せ。ば。其。時。い。男。懐。中。の。囊。より。安。堵。の。所。書。と。あ。り。て。あ。ふ  
あ。り。て。え。と。る。所。聖。付。糸。と。わ。り。く。何。の。郡。を。免。給。る。と。某。の。免  
部。部。新。た。書。の。慰。め。免。よ。と。あ。り。南。方。表。へ。た。ま。い。と。も。着。而。は  
多。し。中。津。川。入。る。今。京。都。の。干。城。を。た。す。し。其。本。か。い。ま。ご。で  
知。る。べ。し。よ。り。て。某。身。つ。て。貴。侯。の。家。に。竊。候。と。ら。す。入。り  
事。急。な。る。ゆ。え。又。姓。名。を。披。露。と。と。る。赤。松。刀。と。ぬ。り。あ。け  
て。矢。田。十。部。小。説。と。り。刺。害。の。報。を。送。り。ま。す。と。は。吾。部。部。も。甚。と

中津川新糸の事

といふ公論と稱す。是下の草むかしがれば貴宅より是とぞい  
 だりぬ。れをくわしていへぬ。いふ事総じて同様して  
 中津川よりぬ。入る久田が志成懐く。任右路家より所の者よ  
 命じて。其地の場田より埋り土を築き石成築く。是の時の人  
 是を山伏塚といひりとする。其後靈地ありといひ塚よ  
 出たり。或る人多し。又靈火ありといひ。出たり。懐く  
 と。いふ事とたさぐ。偶々とて。人必其志を成  
 然と云々。

古今奇談 敏玄語話 第二卷 終

陽板

